

摂津市議会

駅前等再開発特別委員会記録

平成26年12月8日

摂津市議会

目 次

駅前等再開発特別委員会

12月8日

会議日時、場所、出席委員、説明のため出席した者、出席した議会事務局 職員、審査案件	1
開会の宣告	2
市長挨拶	
委員会記録署名委員の指名	2
議案第64号所管分の審査	2
補足説明（保健福祉部理事）	
質疑（市来賢太郎委員、弘豊委員、嶋野浩一郎委員、藤浦雅彦委員）	
採決	13
閉会の宣告	13

駅前等再開発特別委員会記録

1. 会議日時

平成26年12月8日(月) 午前 9時59分 開会
午前10時49分 閉会

1. 場所

第二委員会室

1. 出席委員

委員長	木村勝彦	副委員長	大澤千恵子	委員	藤浦雅彦
委員	三好義治	委員	市来賢太郎	委員	弘 豊
委員	嶋野浩一朗				

1. 欠席委員

なし

1. 説明のため出席した者

市長	森山一正	副市長	小野吉孝
保健福祉部理事	島田 治	保健福祉課長	前野さゆみ

1. 出席した議会事務局職員

事務局次長	川本勝也	同局主査	田村信也
-------	------	------	------

1. 審査案件

議案第64号 平成26年度摂津市一般会計補正予算(第4号)所管分

(午前9時59分 開会)

○木村勝彦委員長 ただいまから駅前等再開発特別委員会を開会いたします。

理事者から挨拶を受けます。

森山市長。

○森山市長 おはようございます。

師走の何かとお忙しいところ、本日は駅前等再開発特別委員会を開催いただきまして大変ありがとうございます。

本日は、先の本会議で付託されました案件についてご審査をいただきますが、何とぞ慎重審査の上、ご可決いただきますようよろしくお願いいたします。

一旦退席させていただきます。

○木村勝彦委員長 挨拶が終わりました。

本日の委員会記録署名委員は、三好委員を指名いたします。

暫時休憩いたします。

(午前10時 休憩)

(午前10時1分 再開)

○木村勝彦委員長 再開いたします。

議案第64号所管分の審査を行います。

補足説明を求めます。

島田保健福祉部理事。

○島田保健福祉部理事 保健福祉部の島田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、議案第64号、平成26年度一般会計補正予算所管分につきまして、補足説明をさせていただきます。

今回の補正予算につきましては、JR操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくりを進めるための関連経費でございまして、2点ございます。

予算書のほうは24ページ、25ページとなっておりますのでお聞きいただきたいと思っております。

款4衛生費、項1保健衛生費、目2予防費で、健康・医療のまちづくり調査業務委託料及び操車場跡地まちづくりポ-

ータルサイト、これは仮称でございますが、この構築負担金でございます。

1点目の健康・医療のまちづくり調査業務委託料につきましては、市民を対象といたしまして健康意識等に関するアンケート調査を行うための費用でございまして、120万円を計上させていただいております。

調査の目的でございますけれども、主に市民の健康づくりの動向でありますとか、食生活の状況なども把握していきたいというふうに思っております、あわせてまして市民の国立循環器病研究センターへの利用ニーズについても聞いてまいりたいというふうに思っております。

アンケート結果につきましては、国立循環器病研究センターとの連携施策の検討ですとか、ほかに来年度策定を予定しております健康・医療のまちづくり計画、これも仮称でございますけれども、この参考としてまいりたいと思っております。

アンケート調査につきましては、当初は来年度予算での計上というふうにも検討いたしましたんですけれども、現在、国立循環器病研究センター及び吹田市と開催しております「吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくり会議」というものがございまして、来年の6月から7月には一定の結論が出るということになっております。我々の意図としましては、この会議とリンクさせながら保健医療施策というのを考えていくべきではないかと考えておまして、来年度執行となりますと、どうしても4月以降にアンケートを行っても6月から7月に結果が出てしまうということなので、その会議の中での議論には盛り込んでいけないと考えまして、今年度中にアンケートを実施したいということで、今回の補正予算ということでお願いをしている次第でござ

ざいます。

2点目の操車場跡地のポータルサイトの構築負担金97万7,000円につきましては、これは操車場跡地に関する情報提供を行うポータルサイトの構築運営費ということでございます。ポータルサイトというのは、わかりにくいかもしれませんが、インターネット上のホームページでございまして、一つの事柄につきまして総合的・網羅的に盛り込んで情報発信をするという構成になっております。本件に関しましてはJR操車場跡地のまちづくりにつきまして、このホームページを閲覧しますと発信されている情報が全てわかるという仕組みになります。

現在は、操車場跡地のまちづくりに関する情報につきましては、摂津市、吹田市、国立循環器病研究センターあるいはUR、これらの関係者がばらばらに情報発信をしているという状態なんです、情報発信の重要性とか、あるいは利便性の向上というのは先の議会でもご指摘をいただいたところでございまして、お聞きしますと吹田市のほうでも地元自治会等から操車場跡地の情報についてやっぱり見づらいというような声があるというふうにお聞きしております。今回、ポータルサイトを整備することによりまして、一元的に国立循環器病研究センターや吹田市、我々の持っている情報もそうなのですが、それを一元的に情報発信することができますので、それによって市民の利便性の向上ができると思っております、効果的であるというふうにお考えしております。

また、操車場跡地のまちづくりにつきましては、摂津市と吹田市が共同して行う事業でございまして、その情報発信につきましては、やはり共同で行ってい

く必要があるというふうにお考えしております。

ポータルサイトで掲載する内容につきましては、今後、吹田市と協議という形になっていくのですが、イメージといたしましては、このポータルサイトというものは国内外に広く、いろいろな方に情報発信をしていくものでございまして、摂津市、吹田市の情報についても発信していく予定です、操車場跡地の中の各街区の情報ですとか、あるいは摂津市・吹田市の両者の健康・医療の情報や取り組みの内容、特に我々は今、まちごとフィットネス！ヘルシータウンせつつ事業として、ウォーキングコースを設定したりしていますので、そういう情報を積極的に情報提供していきたいと思っております。また、それ以外にも事業者向けの医療クラスターの形成に向けた動きなども紹介していければと思っております。当然、国立循環器病研究センターも吹田市民病院の情報もアクセスできるように構築していきたいというふうにお考えしております。

ポータルサイトの構築に当たっては、吹田市が9月の議会で議決されました補正予算により事業者募集を行っております、11月12日に事業者は決定しております。

トータルの予算で305万3,000円ということなんです、このうち97万7,000円については当市が負担、残りの207万6,000円につきましては吹田市が負担するという形になっております。この負担割合は305万3,000円を100としますと、吹田市が68、摂津市が32という割合になるんですけども、これは当市と吹田市が平成20年に締結いたしました吹田操車場跡地地区の整備に関する基本協定というのがございまして、これに基づき取り交

わされました吹田操車場跡地地区の補助金の負担割合に関する確認書というものがあまして、これにおいて取り決められた割合でございます。この割合の根拠は操車場跡地全体の面積の案分ということになっております。

予算をご可決いただけましたら、吹田市と協定書を締結いたしまして、負担金として支出してまいりたいと考えております。このポータルサイトにつきまして今年度中、早ければ2月ぐらいに立ちあげたいということがあまして、今回年度途中ではございますけれども補正予算という形をお願いをするものでございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○木村勝彦委員長 説明が終わり、質疑に入ります。

市来委員。

○市来賢太郎委員 少しでもお伺いします。今、健康・医療のまちづくり調査業務委託料と操車場跡地まちづくりポータルサイト（仮称）構築負担金という2点についてご説明いただきましてよくわかったんですけども、少しでもお聞きしたいと思っております。

市民に対するアンケートを行うのが業務委託料ということでお伺いしましたけれども、委託先について教えていただきたいと思っております。

それと、アンケートをとる方法について、街頭に立ってアンケートをとるのか、ある程度絞ってアンケートをしていくのか、アンケートの方法を教えていただきたいのと、これから6月に向けてアンケートというふうにお伺いしましたけれども、アンケートのスケジュールとまちづくり会議を絡めたスケジュール、6月に一定のめどをつけるとおっしゃったのでいつ

までにアンケートをどういうふうにとって、6月にどれぐらいの資料を持っていくのかということをお願いしたいと思っております。

続きまして、ポータルサイトの構築負担金について、摂津市、吹田市、URなど、別々のところが別々に出している情報をまとめるということだったんですけど、どこが主導でやっていかれるのか教えていただきたいと思っております。

○木村勝彦委員長 島田理事。

○島田保健福祉部理事 市来委員のご質問に対してお答えさせていただきます。

まず、アンケートの関係でございます。予算を可決いただければの話なんですけれども、事業者は年明けにでも入札で募集してまいりたいというふうになっております。

アンケートの手法でございますけれども、見積もりの中では大体1,000人程度を母数としてアンケート調査を行いたいと思っております。無作為抽出型で、年齢層や性別に偏りがないようにした形で、郵送方式を中心にしたというふうになっております。アンケート調査でございますので、当然回答率というところで心配な部分がありますので、その部分は経費のかからない程度で、例えば自治会にお願いするとかいうこともあろうかとは思いますが、今のところは母数を1,000人という形で考えております。

それから、スケジュールでございます。スケジュールにつきましては、今年度内の年明けに発注しまして、年度内にはアンケート調査の取りまとめを行いたいと思っております。また、まとまりましたら、その状況につきましては、議会のほうにもご報告させていただけたらというふうになっております。

健康・医療のまちづくり会議との関係でございますけれども、現在、健康・医療のまちづくり会議のほうを継続的にやっておるんですけれども、将来的な開催スケジュールというのはまだ決まってない部分もございますが、1月にまず1回ございまして、その後早ければ年度内にもう1回あるというふうに思っております。

そこで話し合っている内容というのはやはり地域医療の課題でありますとか、あるいは健康・医療のまちづくりとっておりますけれども具体的にどうしていくのかと。国立循環器病研究センターとの連携というのが一番大きな柱になろうかと思っておりますけれども、その辺を議論しているところでございます。今はまだ課題抽出という部分がございますので、いろいろと関係者の中でそういう声を拾い上げているという状況でございますので、それが一定整理できた段階で、行政としましてもこうしていきたい、ああしていきたいと、吹田市も含めまして意見を申し述べていくのかなというふうに思っております。それが大体、年度明けというふうなスケジュールでやっているところでございます。そこで、その辺に摂津市民はこういう意識を持っているということをおつづけていければと思っております。特に国立循環器病研究センターとの連携という部分でいけば、そういう市民ニーズというのを拾い上げるというのは非常に重要なのかなと。今の時点で私どもの取り組み不足かもしれませんけれども、そういう市民の声を拾い上げるという部分がまだできていないというところもあるかと思っておりますので、その辺に今後力を入れてまいりたいなというふうに思っております。

ポータルサイトでございますけれども、ポータルサイトの運営につきましてはホー

ムページのアドレスにつきましては吹田市役所でありますとか摂津市役所、あるいは国立循環器病研究センターというところではなくて別のところに一つアドレスをつくるという形で考えております。ただ、運営につきましては当然事務局として摂津市もかかわりますし、吹田市もやるということでございますので、それぞれが管理権限をきちんと持ちまして、内容もチェックして、情報の更新もそれぞれが行えるようにするという形で考えております。

○木村勝彦委員長 市来委員。

○市来賢太郎委員 ありがとうございます。

健康・医療のまちづくり調査業務委託料で、1,000人程度を対象に郵送で行うということだったんですけど、これは摂津市の市民を対象に1,000人ということなのか、摂津市、吹田市を合わせて1,000人ということなのかお伺いしたいと思います。

それと、ホームページの件なんですけど、それぞれ権限を持ってやるということなんですけれども、それぞれに事務局を持ってということなんですけど、どこかで一つでプロジェクトチームをつくってそれぞれでやるのか、結局ばらばらで一つのものをつくるのか、その点をお伺いしたいと思います。

○木村勝彦委員長 島田理事。

○島田保健福祉部理事 再度のご質問にお答えいたします。

まず、アンケートの件でございますけれども、対象は摂津市民を考えております。摂津市民は約8万人いらっしゃいますので、1,000人ぐらいがちょうど統計的な調査等の母数としては適当なのかなというふうに考えてございまして、摂津市民を対象に考えております。

それから、ポータルサイトの管理運営という形なんですけれども、これにつきましては組織的にプロジェクトチームのようなものをつくるわけではないんですけれども、両方で事務局という形で担当を決めて、そういう形で運営をしていきたいというふうに思っております。基本的に業務委託をしますので、日々の構築でありますとか保守点検みたいなところは業者が行うと。内容の更新については吹田市と我々が責任を持って行うと、そういうふうな形を考えております。

○木村勝彦委員長 市来委員。

○市来賢太郎委員 健康・医療のまちづくり調査業務委託料で、摂津市民を対象に1,000人程度ということで適当ではないかということだったんですけれども、市民の意見を聞いてまちづくりに反映していくというのはとても素晴らしいことだと思うんですけれども、8万5,000人の中で1,000人を対象でちょうどいいとおっしゃるその算出理由を最後にお伺いしたいなと思います。

それと、ホームページのほうですけれども、両者が主導でやっていく中で、摂津市にも吹田市にも権限があるということだったんですけれども、今まで別々でやっていて、それを一つにまとめるということなので、また別々の意見がばらばらにならないように連携し合っているものをつくっていただきたいなと思います。こちらは要望とさせていただきます。

○木村勝彦委員長 島田理事。

○島田保健福祉部理事 アンケートの1,000人の根拠でございますけれども、アンケートは8万人超えの市民の中で全員にアンケートをとれば一番いいのかもしれないけれども、なかなか統計学上で見ても、一定数以上アンケートをとっても余り回答率に変わりがないというの

もありまして、予算の関係上から見ましても1,000人ぐらいが適当なのかなということで1,000人という形をとらせていただきました。先ほど市来委員の1回目の質問の中にもあったかと思うんですけれども、もしそれで足りないということがありましたら、郵送方式では1,000人ということを考えておりますけれども、また別途自治会でお願いするとか、そのようなことでできるだけ広く声を集めてまいりたいというふうに思っております。

○木村勝彦委員長 市来委員。

○市来賢太郎委員 1,000人ということで、一番効率的に回答率が高いようになるような1,000人を抽出していただけるという答弁と理解しました。市民の意見を聞くこと自体はいいことだと思いますので、せっかくやるなら回答していただく率が高いように効率的にやっていただきたいと思います。また、そのアンケートに対して、まちづくり会議で反映していかれるということだったので、小さな声でもしっかりとまちづくりに反映していかれるように有効利用していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○木村勝彦委員長 前野課長。

○前野保健福祉課長 アンケートに関する契約の方法について、理事から入札で行いたいという答弁をさせていただきましたが、現在は財政課と協議を行っている段階ですので、協議をして、適正な方法で行いたいと思っております。

○木村勝彦委員長 ほかにありませんか。弘委員。

○弘豊委員 おはようございます。

今回の調査業務委託料と、それからポータルサイトの構築負担金ということで、やっぱりこの事業にかかわって市民の声

もししっかり聞いていくし、また情報発信も行っていくというようなことは、この時期にやっていく大事なことなのかなというふうに改めて思っているところです。その上で、確認の意味も込めて聞いておきたいというふうに思っております。

一つ目は、健康・医療のまちづくりについて調査業務委託をしてアンケートをとっていかれるというふうなことであります。このアンケートの中身が吹田操車場跡地、国立循環器病研究センターにかかわっての意識やニーズ、そういったことであったり、食生活にかかわってというようなことであったりというふうなことで、このこと自体が今後の事業にも生かしていくというようなことだと思っておりますけれども、健康・福祉全体にかかわってみましたら、健康せつつ21というふうなことでのこれまでの計画もあります。そこらあたりとの関係といたしますか、そういったものについてのお考えがどうかというようなことを聞いておきたいのと、いろいろと資料を見ていましたら、今年の8月に国土交通省が出している分の資料で「健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン」というものがつくられていて、そういったものも拝見していると、健康・医療・福祉というふうなことがある中で、今回は国立循環器病研究センターを中心としたもので、そこについては健康・医療というふうなことで強調はしてるんだらうと思っておりますけれども、そこらあたりの考え方のところを私の中でも整理できたらと思って、1点お聞きしておきたいと思っております。

もう一つは、まちづくりポータルサイトのほうなんですけれども、10月に行った健康・医療のまちづくり会議の中でもこのことが議題になってるかと思っております。議事録がもうできていたらいいなと思っ

てたんですけど、まだ閲覧できなかったもので、その会議の中でこの件に関して、参加されている委員の方から意見が出るかどうかについてお聞きしておきたいと思っております。

○木村勝彦委員長 島田理事。

○島田保健福祉部理事 弘議員のご質問についてお答えいたします。

まず、一つ目のアンケートの関係でございますけれども、国立循環器病研究センターとの医療ニーズの関係だというふうには思っておりますけれども、健康せつつ21とのかかわり、あるいは既存の計画とのかかわりということになるかと思っておりますが、もちろん摂津市には総合計画がございますので、そこを大もとにしましていろんな計画が成り立っているというふうには認識しております。健康せつつ21につきましては、平成26年4月から実質的に動き出しているというところでございますけれども、国立循環器病研究センターとの連携とか、その辺の視点というのは全く入っていないということがございますので、今回新たに来年度つくろうとしております健康・医療のまちづくり計画というのは、その抜けている部分といたしますか、国立循環器病研究センターとの連携によってどういうふうに地域医療を上げていくのかという部分を、既存の計画との整合性を持たせながらつくっていくものだと理解しております。

それから、国土交通省のガイドラインの話をいただいたんですけど、これとの関連性ということなんですけれども、これは簡単になんですけども、国土交通省の出されてるガイドラインについては我々も中身について確認しております。どちらかといいますと、ハード系の整備を中心としながらどうやって健康・医療の分野にアプローチしていくのかという

のが国土交通省の視点でございます。

今、我々がやっている健康・医療のまちづくりというのは、ハードの部分は街区の整備という部分ではあるんでしょうけれども、それとは直接リンクさせないで、まちづくりというとハード系のイメージがあるんですけども、健康・医療というソフト面からどうやって摂津市の施策をつくっていくのかという形での議論をさせていただいているところでございます。

国土交通省のガイドラインも我々は参考にしながら、取れるところは取りつつ議論をしていきたいなというふうには思っております。

それから、10月の会議の内容でございますけれども、まず健康・医療のまちづくり会議、これは吹田市、摂津市、国立循環器病研究センター、市民病院で行った四者協議の内容につきましてはまだ議事録には上がってないんですけども、前回は主に摂津市の三師会のほうから国立循環器病研究センターが来ることよっての期待というんですかね、そういう表明をしていただきました。医師会、薬剤師会それから歯科医師会のほうからいただいたご意見の主なものといたしましては、まずはやはり操車場跡地のあの地域だけの健康・医療のまちづくりで終わらないようにしてほしいという話です。

それと、やっぱり国立循環器病研究センターが来るということについては、みんな歓迎しますと。その上で何かしらやっぱり連携していきたいと。連携施策については国立循環器病研究センターのほうも一定出しているんですけども、それ以外に何か出てくるのか出てこないかというのはまだわからない部分があるので、まずは積極的に協力していきたいという意見表明が行われたというところでござ

います。あとは、やっぱり医療クラスターの話がございまして、まだその全体像についてはわからない部分があるんですけども、それについては国立循環器病研究センターに対して明確化してほしいというような意見がありました。

それを受けまして、我々摂津市のほうでも関係者が集まりまして、健康・医療のまちづくりに対しての部会を健康づくり推進協議会の中につくって、1回目の協議をさせていただきました。そのときは、健康・医療のまちづくり会議の中でどういう議題になっているのかという説明をさせていただいて、現状を認識していただいたというところでございます。こちらの会議のほうは今後、摂津市の健康課題を具体的に取り上げながら、国立循環器病研究センターが来たことよってどういう施策を打っていけばいいのかというご意見を賜っていただけるかなというふうに思っております。

○木村勝彦委員長 弘委員。

○弘委員 ありがとうございます。

健康・医療のまちづくりというようなことで進めていかれる中で、11月に行われた保健センターでの健康まつりでも初めて国立循環器病研究センターが来たというようなことで、そういったことも市民の皆さんにお伝えしたら、やっぱりここに移転してくることで市民と一緒に何かしらやれることができてるのかなというようなことでの期待も私はお聞きしましたし、またそれを今後の計画の中にもどんと生かしていけるような形で進めていってほしいと思います。

同時に今の答弁の中にもありました、国立循環器病研究センターの周辺だけじゃない摂津市全体のまちづくりというふうな点でいいましたら、健康せつつ21の中で課題も的確に示されていってるん

だろうと思うんですけれども、そここのところにも生かしていただきたいというふうに強く求めておきたいと思いません。

話が少しそれるかもしれませんが、私は誕生日が10月だったので、特定健診の受診ができなくて遅れましたところ、勧奨のはがきが届きました。開いてみてびっくりしたんですけれども、高血圧の罹患率が摂津市は大阪府内でワーストワンということがそのはがきの中に書かれていました。統計的にはそうなんですね。そういったことを見ましたら、もっといろんな点で啓発もそうだし、健康にかかわる施策を大事なことにしていくというようなことが重要になってくるというふうに思いますので、そこらあたりも含めて、今後きちんと取り組みを進めていってほしいと思いました。これは答弁は結構です。

あと、ポータルサイトにかかわっての部分、さっきの10月の会議の中ではどうだったのかということをお聞きしたんですけれども、そこらあたりについて気になったのは、議事録は出てませんでしたけれども、会議の資料はいろいろ出されてまして、ポータルサイトの構築についてということで吹田市が出している文書があります。サイトのコンテンツイメージ案も出ていました。これを見る中では、やっぱり吹田市が主体であって、摂津市が見当たらないということがあって、そこらについて何か意見がなかったのかなということもあります。もちろん構築についての概要や内容やそういったことについては、摂津市と協議をして共同事業でというようなことは書いてあるんですけれども、コンテンツイメージ案のところが気になったもので聞いてみました。もし答弁できるようでしたら、お願いし

たいというふうに思います。

○木村勝彦委員長 島田理事。

○島田保健福祉部理事 コンテンツイメージのところでございますけれども、9月議会で吹田市は先に補正予算を上げておられるんですけれども、そのときは話のタイミングがうまく合わずに、我々は12月議会に補正予算を上げるということで、遅れる形になったんですけれども、吹田市が9月議会に上げられる際は、最初は吹田市単独でのサイトという形の上げ方をしていますので、吹田市主導のそういう形のコンテンツイメージが出てるところでございます。ただ、やっぱり我々としても、貴重な税金を使って整備させていただくものでございますから、それは平等に、吹田市・摂津市がきちりとした情報発信ができるコンテンツに仕上げたいというふうに思っています。両者が一緒に発信していくべき情報もございますので、その辺は割り振りというのは難しいかもしれませんが、弘委員が見ておられるようなコンテンツイメージに限定・拘束されるのではなくて、やはり我々としてはきちりと情報発信できる内容に整理させていただきたいと思っています。それはきちりと吹田市のほうにもお話をさせていただきたいというふうに考えております。

○木村勝彦委員長 嶋野委員。

○嶋野浩一郎委員 冒頭に島田理事から本当に詳しくご説明いただきまして、この内容をよく理解することができました。そこで、市来委員も弘委員もいろいろと質問されておられましたけれども、少し私も質問させていただきたいと思っております。

まず、アンケートなんですけれども、今回は1,000人を対象に郵送されるということでおっしゃってられました

けれども、やはり回答率をいかに上げていくのかということになるんだろうなというふうに思うんです。アンケートの回答率を上げていくということを考えたときには、いろいろな観点があるんだろうと思うんですけれど、一つは設問が余り多過ぎたら恐らく回答率は低いんだろうなと思います。そうなったときに、例えば健康づくりの状況であるとかもあわせて聞いていかれるということなんですけれども、そこは本当に要るのかなと。要は、国立循環器病研究センターというものに対してどういったことを市民の皆さんは期待されているのかということに特化したほうが回答率は上がるんじゃないかなと。恐らく、今まで摂津市内でも健康増進ということでいろんな計画を立ててきたわけでごさいます、その中では当然アンケートもしてきたでしょうし、いろいろと聞き取り調査なんかもしてきたと思うんです。そこで、現在の市民のざっくりとした健康への意識なんていうのは、そこで把握できてるんじゃないかなと思うんです。今回このアンケートの中で、詳細はこれから詰めていかれるんだろうと思いますけれども、健康づくりの状況であるとかそういったところまで入れておられるというところに何か狙いがあるのか、そのことをお聞かせいただきたいなというように思います。

それと、ポータルサイトなんですけれども、内容をお聞きしていると国立循環器病研究センターを利用して、いかに地域医療や市民の健康づくりに寄与していくのかという観点からポータルサイトをつくられていくと思っているんですけれども、そうすると、見ていただく対象の方は摂津市・吹田市の両市民の方ということを中心に念頭に置かれてつくられていくのか、その点を一度お聞かせいただき

たいと思います。

○木村勝彦委員長 島田理事。

○島田保健福祉部理事 まず、アンケート調査の項目でございますが、詳細については委員からご指摘いただいたとおり、今後詰めていくことになるというふうに考えております。当初、私の説明の中で健康づくりの動向でありますとか食生活の内容ということでいろいろ説明させていただいたのですが、その狙いといたしましては委員がおっしゃるとおり、今までの計画の中である程度の健康状況や健康づくりの状況についてはアンケートをしていて把握できている部分もございませう。それについては当然そのまま活用させていただきますというふうに思っております。国立循環器病研究センターとの連携というのが主眼になるというのはまさにそのとおりかというふうに思っておりますが、私が健康づくりとかその辺の状況をもう少し把握したいというのは、国立循環器病研究センターとの連携というのは医療ニーズです。それについては当然知りたい部分なんですけれども、例えば、健康づくりの中でも表面的な質問というんですかね、例えば運動されてますか、されてないですかという質問というのは確かに今までのアンケートの中でもあったかと思うんですけれども、例えばどのような健康づくりをされてますかという質問までつっこんだところまでは恐らく聞いてなかったのではないかなと。例えばウォーキングをしてる人が多いですとか、ジムに通われてる人が多いのか、それとも温水プールを利用されてる方が多いのかといったことですね。その辺も今後やっぱり国立循環器病研究センターと連携する中で、例えば、そうしたらウォーキングをしてる方が多いのであれば、今後どのようなやり方をし

ていけばさらにウォーキングをする人が増えるのかとか、その人の利便性がいいのかとか。例えば、循環器に特化した病院でございますので、そのウォーキングの中でどういう歩き方をすれば循環器の機能が上がるのかとか、そういう示唆がいただけるのではないかと、そういう観点からもう少し掘り下げた形で聞ければという思いもございました。ただ、委員がおっしゃっているとおり、設問が余り多いと回答率が上がらないというようなご指摘はそのとおりでございますので、今いただいたご指摘を踏まえまして、もう一度いろいろ検討させていただければと思っております。

2点目のポータルサイトでございますけれども、これはポータルサイトということで見ていただく手段というのは私どもからすれば市民というのが一番かというふうに思っておりますけれども、それ以外に国内外の方にも広く情報を発信したいと思っております。市民のニーズと世界の方が見られる視点が違うのかもしれませんが、その辺の情報を知りたいと言われる方のニーズにできるだけ合わせるような形のコンテンツを組んでいくというのが必要だというふうに思っておりますので、その点は吹田市と今後きちりと詰めさせていただいた上で、また議会のほうにご報告させていただければと思っております。

○木村勝彦委員長 嶋野委員。

○嶋野浩一朗委員 それでは、アンケートのほうなんですけれども、理事におっしゃっていただいたように、今までの健康づくりへの調査、アンケートよりももっと具体的に掘り下げて市民の皆さんの状況をお聞きしたいというところですね。そこはよくわかりますし、それはこれからの摂津市民の健康増進を考えたときに

は非常に大きなものになるだろうなというように思うんです。ただ、今回の1,000人を対象にしたアンケートとドッキングすることはどうなのかということについてはもう一度ご検討いただければと思うんです。確かに有効な材料は得られるかもしれませんが、それを今回のアンケートに盛り込むことによって回答率が低くなってしまうと、ひょっとすると今回の趣旨そのものがあやふやになってくるかもしれませんので、そこは内部でも協議をさせていただいて、より有効な形でアンケートを実施していただければと思います。ぜひそこはご検討をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、ポータルサイトなんですけれども、これはまち開きまでの情報提供ということでされるというイメージで思っていたんです。そうすると、市民の皆さんに対してどうなっているかという進捗状況をお知らせしていくということになるんだろうと思ひていたんです。ただ、これを国内外の皆さんにお知らせするという話になってくると、それは国立循環器病研究センターの持っている機能であるとか、それを利用して両市の市民の皆さんにどういった健康づくりの施策ができるのかということになってくると、これはまち開き後の話になってくるんだと思ひます。そこら辺が理解できなかったもので、これをまち開きまでのものとするのであればそれなりの打ち出し方があるでしょうし、それはそれで市民の皆さんにお伝えしていきながら、しかしそれ以後も続けていくというのであるならば、そちらにしっかりと主眼を置いたものになっていくでしょうし、そこら辺のことはもう少し詳しくお聞かせいただければなと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○木村勝彦委員長 島田理事。

○島田保健福祉部理事 ご質問にお答えいたします。私の説明不足もございました。申しわけございませんでした。

ポータルサイトのイメージでございますけれども、これはまち開きまでが主眼でございます。そういう意味でいいますと、委員からご指摘いただいたところでいいますとそういうイメージということになるのかなというふうに思っております。まち開き後につきましては当然そこに事業者が入ってきますので、そちらのほうで主体的に我々の事業を引き継いでいただけてやっていただけるというふうに思っております。そういう意味でいいますと、市民への情報提供をもっときちりしていかなければならないということになると思うんですけれども、そこにつきましては我々のほうでもやはり、先ほど申し上げたところもあるんですけれども、市民の健康状況でありますとか、あるいは我々のやっている取り組み、イベントの情報もそうなんですけれども、そういうものについてはきちり情報提供をさせていただいて、市民向けのコンテンツもきちりと構築いたしまして、情報発信をしていきたいと思っております。なかなかまち開きまでという限定のものでございますが、やはり医療クラスターの関係もございまして、そこは事業者向けのものも一部入れていかないといけないという部分もございまして、そこは両にらみという形での情報発信になるかとは思いますが、できるだけ市民の方にわかりやすい形での情報発信ということをご心掛けていきたいと思っております。

○木村勝彦委員長 ほかに。

藤浦委員。

○藤浦雅彦委員 おはようございます。

今までにそれぞれ各委員のご質問によりまして中身はよくわかってきたわけでございます。

今回、健康・医療のまちづくりに向けて、スケジュールを持って、一つ一つ進めていただいているということはよくわかるわけでございます。先ほどからの質問にもありましたように、摂津市には健康せつつ21もありますし、健康づくりの施策として来年からスタートするものもありますし、その辺のことはしっかりと絡めながらといいますか、うまく入れ込みながら計画を構築していただきたいなと思うわけでございます。

それで、一番心配していますのは、先ほど弘委員も言われましたけど、ポータルサイトは吹田市が先行で作り出しているというようなこともありますが、この吹田操車場跡地のまちづくりは一番最初から吹田市が先に何かを考えてつくって発表して、摂津市はどうなっているんだということになってきた感覚が非常に強いわけでございます。最初の国立循環器病研究センターをめぐる問題のときも、うちは正雀下水処理場の問題を抱えていまして、そのときも本当に議会と市が丸となってこの解決を勝ちとったと言えるような状況でございます。決して吹田市が先行してこれを解決しようという態度ではなかった中で今日まで至っているということで、島田理事もその辺はよく聞いていただいていると思うんです。吹田市の姿勢といいますかね、そこが一番危惧しているところでございます。もともと吹田市と国立循環器病研究センターとの関連のいろんな施策を展開してまいりましたし、そういう意味では、ポータルサイトに関しても、また吹田市が勝手に先行してやっていくんじゃないかという危惧が非常にありまして、決してそうならな

いように、摂津市も補助率が約32%ということでありましたけれど、このことにとらわれず積極的に戦略的に計画を策定していただき、島田理事を中心にやっていただくとするんですけども、そういう態度でぜひ取り組んでいただきたいということをお願いしておきたいと思えます。吹田市と摂津市の進め方について、吹田市先行という気がしてならないわけですが、その辺で現状の立場というか立ち位置について副市長のほうから補足も含めて、きちんと対等でやってますよということなのか、いろいろ危惧することもあるのかも含めてご答弁いただけたらいいなと思えます。

○木村勝彦委員長 副市長。

○小野副市長 藤浦委員が言われたことは否めなかったと思えます。これは国立循環器病研究センター移転問題が吹田市にあって、そこから出てきておりますので、その中で見ておいたというのも事実でございますから。

このポータルサイトについてもいろいろ議論していただきました。吹田市がそういう形で出してこられて、摂津市も置き去りにされてはいけないという形でこれを処理してきたということですから、今後はそういうことはないと思えます。ただ、今後、問題が出てくるのは、藤浦委員が言われた正雀下水処理場の土地問題の全体がまだ見えません。7街区問題というのは国立循環器病研究センター、UR、私どもで話し合いをしていますので、これは吹田市とは別個の中身で処理ができると思っています。やはり、処理場問題がまだ具体的には見えないと。ここについては私どもが主導でやらせてもらうという気持ちでやっております。なぜならば、摂津市内にある土地であるということが前提でございますから、これ

を置き去りにされては許せませんので、そういうことがないように頑張っていきたいと、十分注意してやってまいりたいというふうに思っております。

○木村勝彦委員長 ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○木村勝彦委員長 以上で質疑を終わります。

暫時休憩します。

(午前10時46分 休憩)

(午前10時48分 再開)

○木村勝彦委員長 再開します。

討論に入ります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○木村勝彦委員長 討論なしと認め、採決します。

議案第64号所管分について可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○木村勝彦委員長 全員賛成。

よって、本件は可決すべきものと決定しました。

これで本委員会を閉会します。

(午前10時49分 閉会)

委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

駅前等再開発特別委員長

木村勝彦

駅前等再開発特別委員

三好義治